

## しあわせ家族計画 字幕

### Chapter8: Three days to go

ふ じ お  
富士夫 : おはようございます

ゆう こ  
優子 : 林さん、いつまで雑誌読んでんの  
しまいなさい

はやし  
林 : すいません

ゆう こ  
優子 : そこ終わったらさ、表、掃いてちょうだい<sup>1</sup>

つね こ  
恒子 : お茶でも飲むかい  
まったくねえ

このぶんじゃ<sup>2</sup>、借りたお金もなかなか返せそうにないね

ゆう こ  
優子 : 出前でも始めようかな

つね こ  
恒子 : 何言ってるの

うんてん  
運転もできないくせに<sup>3</sup>

ゆう こ  
優子 : それぐらいやらせるわよ、家のやどろくに

つね こ  
恒子 : タベ帰って来なかったじゃないの、やどろくは

ゆう こ  
優子 : ったくもう、本当に

なにかんが  
何考えてんだか<sup>4</sup>

ったくもう

ゆう こ  
優子 : 何やってんの

とう  
お父さんは

あなた

さけ  
酒くさっ

どういうつもりよ、お酒なんか飲んで

ふ じ お  
富士夫 : あんまり大声、出さないでくれ

ゆう こ  
優子 : あなたね、自分が今どういう立場なのか分かってんの

ふ じ お  
富士夫 : ごめん、ごめん

ゆう こ  
優子 : どういう神経だと朝帰りなんかできるのよ

あたし達家族にとってね、今、一番大変な時なのよ

それもピアノの練習も、ピアノの練習も、ほっぽり出して<sup>5</sup>

ふ じ お  
富士夫 : ええ、今、ね、や、やろうと思ってたところだよ

ゆう こ  
優子

うそ  
：嘘つき

よう  
要するにね、あなたには、<sup>か ぞく たい</sup>家族に対する<sup>あいじょう</sup>愛情がないのよ

だから<sup>へい き</sup>平気な<sup>かお</sup>顔して<sup>ね</sup>寝てられんのよ<sup>6</sup>

<sup>む せきにん</sup>  
無責任よ

どうして<sup>すこ</sup>少しでも、みんなのために<sup>がん ば</sup>頑張ろうって<sup>おも</sup>思えないのよ

ふ じ お  
富士夫

：いやおも、おも、思っているさ

ゆう こ  
優子

：思っているだけダメ

そんな<sup>こんじょう</sup>根性なしだから<sup>7</sup>、<sup>かいしゃ</sup>会社だってクビになるのよ

<sup>にようぼう</sup>女房の<sup>じっ か</sup>実家に<sup>せ わ</sup>世話なって、<sup>だん ご</sup>団子ひとつ<sup>まる</sup>丸められないで

おまけに<sup>8</sup>200万、<sup>まん お</sup>落っことしたりするのよ<sup>9</sup>

いい

あんたが、<sup>いま</sup>今<sup>たち か ぞく</sup>あたし達家族のためにできる<sup>こと い</sup>事と言ったら、テレビに出<sup>で</sup>て、300

<sup>まん と</sup>万<sup>こと</sup>取る事だけなのよ

それができなきゃね<sup>10</sup>、<sup>ちちおやしっかく</sup>父親失格

<sup>にんげんしっかく</sup>  
人間失格なの

よう こ  
陽子

：やめて

むちゃくちゃ<sup>い</sup>言わないで

<sup>とう</sup>お父さんが<sup>かわい</sup>かわいそうだよ

<sup>もともと む り</sup>  
元々無理なのよ、ピアノなんて

<sup>とう</sup>お父さんだって一生<sup>いっしょうけんめい</sup>懸命やってるわよ

けどお父さんが<sup>とう</sup>ぶきっちゃで<sup>うんどうしんけい</sup>運動神経ゼロなの、お母さんだってよく知<sup>し</sup>って

るじゃない

いくら<sup>れんしゅう</sup>練習したってピアノなんて<sup>む り</sup>無理なのよ

<sup>かあ</sup>お母さん、<sup>かって</sup>勝手だよ<sup>11</sup>

ゆう こ  
優子

：<sup>なま い き</sup>生意気な<sup>こと い</sup>事を言う<sup>まえ</sup>前に、あんたは<sup>がっこう い</sup>学校行きなさい

ふ じ お  
富士夫

：優子

<sup>かあ</sup>お母さんな、つい<sup>い</sup>言っちゃっただけで、わる、<sup>わる ぎ</sup>悪気はないんだよ

<sup>ゆう べ</sup>昨夜、あの、<sup>さけ</sup>お酒なんか<sup>の い</sup>飲みに行っちゃったお父さんが<sup>わる</sup>悪いんだから

<sup>いま</sup>今からちゃんと、<sup>れんしゅう</sup>練習するから

よう こ  
陽子

：なんでお父さんがそんな<sup>ふう</sup>風におどおどするの<sup>12</sup>

<sup>いや</sup>ピアノなんか嫌だって、できないって<sup>い</sup>言えばいいじゃない

ここに<sup>こ</sup>越してきてから、お母さんやあたし<sup>かあ</sup>達の<sup>たち</sup>顔<sup>かおいろ み</sup>色見て<sup>13</sup>ばっかり

<sup>わる</sup>カッコ悪いよ

<sup>とう</sup>お父さんなんか<sup>きら</sup>嫌い

富士夫 <sup>ふ じ お</sup> : ごめんな  
陽子 <sup>よう こ</sup> : あたしがアメリカ行きたいなんて言ったから  
富士夫 <sup>ふ じ お</sup> : 違<sup>ちが</sup>うよ  
          <sup>うれ</sup>  
          だけど、ちょっと嬉しかったな  
陽子 <sup>よう こ</sup> : 陽子が、あんなふう<sup>ほんとう</sup>にピアノの事<sup>こと</sup>をかばってくれるなんて  
富士夫 <sup>ふ じ お</sup> : えっ  
陽子 <sup>よう こ</sup> : アメリカ旅行<sup>りょこう</sup>  
          <sup>えい ご</sup> <sup>つう</sup>  
          あたしの英語、通じるかな、なんてね

喜美子 <sup>き み こ</sup> : なあに、やってんの、あんた<sup>14</sup>  
          <sup>き</sup> <sup>ひと</sup>  
          聞いたわよ、うちの人から<sup>15</sup>  
          <sup>で</sup>  
          テレビ出<sup>で</sup>んだって<sup>16</sup>

富士夫 <sup>ふ じ お</sup> : ええ  
喜美子 <sup>き み こ</sup> : もう1回<sup>いっかい</sup>、弾<sup>ひ</sup>いてよ  
富士夫 <sup>ふ じ お</sup> : 広瀬<sup>ひろ せ</sup>さんの  
喜美子 <sup>き み こ</sup> : そうよ  
          <sup>いっかい</sup> <sup>ひ</sup>  
          もう1回、弾いてよ  
富士夫 <sup>ふ じ お</sup> : このあいだは、どうも  
喜美子 <sup>き み こ</sup> : いいえ

店員1 <sup>てんいん</sup> : じゃ、すいません  
          <sup>さき</sup> <sup>しつれい</sup>  
          お先に失礼します  
優子 <sup>ゆう こ</sup> : お疲れ様<sup>つか さま</sup>  
店員2 <sup>てんいん</sup> : おやすみなさい  
優子 <sup>ゆう こ</sup> : あっ、ちょ、ちょっと待<sup>ま</sup>って  
店員1 <sup>てんいん</sup> : いいですって  
優子 <sup>ゆう こ</sup> : 同じ<sup>おな</sup>ので悪<sup>わる</sup>いんだけどさ  
          <sup>さむ</sup>  
          寒<sup>さむ</sup>いじゃん、だから、あったまるから<sup>17</sup>、ね  
店員2 <sup>てんいん</sup> : ごちそうになります  
優子 <sup>ゆう こ</sup> : ご苦<sup>く</sup>勞<sup>ろう</sup>様<sup>さま</sup>でした  
          おやすみなさい  
          <sup>あした</sup> <sup>き</sup>  
          明日も来てよ

てんいん  
店員2

: いいんですか

ゆうこ  
優子

: ちょっと、ほんとに<sup>き</sup>来てよ、ちょっと  
おやすみなさい

しながわ  
品川

: 川尻君<sup>かわじりくん</sup>の、奥<sup>おく</sup>さまでいらっしゃいますでしょうか

ゆうこ  
優子

: そうですけど

しながわ  
品川

: 以前<sup>いぜん</sup>、会社<sup>かいしゃ</sup>で 机<sup>つくえ</sup>を並<sup>なら</sup>べておりました<sup>18</sup>、品川<sup>しながわ</sup>と申<sup>もう</sup>します

ゆうこ  
優子

: まあ、どうも

いつもお世話<sup>せわ</sup>になっています

どうぞ、中入<sup>なかはい</sup>ってください

あの、今<sup>いま</sup>、外<sup>がい</sup>出<sup>しゅつ</sup>してるんですけど、すぐ戻<sup>もど</sup>りますから

奥<sup>おく</sup>さまも、どうぞどうぞ

あの、散<sup>ち</sup>らかってますけども<sup>19</sup>、あの、お茶<sup>ちゃ</sup>、お出<sup>だ</sup>ししますから

あの、今<sup>きょう</sup>日<sup>や</sup>、ど<sup>ら</sup>焼<sup>や</sup>きぐらいしかないんですけど

あっ、ビール<sup>ほう</sup>の方がいいですかね

しながわ  
品川

: うるさい

失礼<sup>しつれい</sup>しました

実<sup>じつ</sup>は、新会社<sup>しんがいは</sup>を設<sup>せつ</sup>立<sup>りつ</sup>すると 称<sup>しょう</sup>して、私<sup>わたし</sup>は川尻君<sup>かわじりくん</sup>から、夜逃<sup>よに</sup>げのためのお金<sup>かね</sup>を、  
だまし取<sup>と</sup>ろうとしました

ゆうこ  
優子

: へえっ

しながわ  
品川

: あっ、で、あのう、でも、やっぱ<sup>じぶん</sup>り、自分<sup>じぶん</sup>にはできなくて、川尻君<sup>かわじりくん</sup>に、洗<sup>あら</sup>いざ  
らい話<sup>はな</sup>したんです

そうしたら、川尻君<sup>かわじりくん</sup>は、私<sup>わたし</sup>を、なじるところか<sup>20</sup>、なんとか、頑張<sup>がんば</sup>ってほし

いと、いやあ、奥<sup>おく</sup>さんね、200万<sup>まん</sup>のお金<sup>かね</sup>を、そっ<sup>わたし</sup>と私<sup>わたし</sup>に渡<sup>わた</sup>してくれたんですよ

ゆうこ  
優子

: 200万<sup>まん</sup>を

しながわ  
品川

: あれから私<sup>わたし</sup>は、なんとか仕事<sup>しごと</sup>も見<sup>み</sup>つけました

ほんの少<sup>すこ</sup>しずつですが、川尻君<sup>かわじりくん</sup>には必<sup>かな</sup>ずお金<sup>かね</sup>を返<sup>かえ</sup>します

そうお伝<sup>つた</sup>えしていただけますか

あっ、それで、今<sup>きょう</sup>日<sup>や</sup>は、2万<sup>まん</sup>しかありませんが

川尻君<sup>かわじりくん</sup>のおかげで、なんとかまともにや<sup>21</sup>っていく決<sup>けつ</sup>心<sup>しん</sup>が、つい<sup>22</sup>たんです

なんとお礼<sup>れい</sup>を言<sup>い</sup>っていいか

本<sup>ほん</sup>当<sup>とう</sup>にあら<sup>お</sup>りがとうござ<sup>お</sup>いました

ゆうこ  
優子

: 落<sup>お</sup>としたんじゃなかったのね

しながわ  
品川

: は

きみこ  
喜美子

: はい、これ持<sup>も</sup>って

ゆび あたた  
指、温めて  
ふ じ お  
富士夫 : どこ行くんですか  
き み こ  
喜美子 : いいから、ほら

ゆう こ  
優子 : よし た ろ う  
          由太郎  
          よう こ  
          陽子  
          い  
          行くわよ